

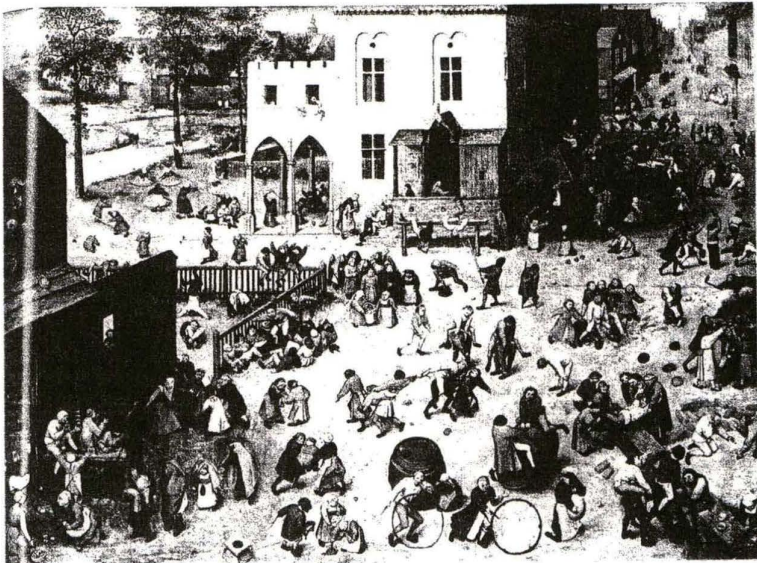
千里山時代のあそび (四)

二十回生 久保 利也

著述をなりわいとしている人達にとってその作品が次々にヒットし、そしてテレビ化される、映画化されるなんてことはまことに希有なことといわれます。今、人気絶頂の東野圭吾さん、山本一力さんそしてわたしの大好きな藤沢周平さんが著名になるまでの御苦労や努力は筆舌に尽くせません。

過去にも書きましたが、こうして書いている拙著でも果して読んでいただいているのかなと不安頻りです。しかし第十三号は若干の反響がありました。感想が寄せられました。ただし、わたくしの文章に対してではなく、ミスターNNのさし絵に関するものであります。

元気に遊んでいる子供達は何人いるのでしょうか、という結句に対してもおふたりから回答が寄せられました。更にYHさんから「ブリュージュの絵を思い出しました。」とお便りをいただきました。恐ブリュージュ？ わたくしは知りませんでした。恐



ピーテル・ブリュージュ・署名年記 1560年

118×161 cm・美術史美術館・ウィーン

らくミスターNNも知らない画家だろうと思います。早速、美術年鑑で調べてみましたら確かに「子供の遊戯」という画題で描かれている油彩画です。

大人か子供か判らない風采、衣装ですが、約250人の子ども(?)達が、お手玉、シャボン玉、目かくし鬼ごっこ、輪まわし、竹馬、こままわし、馬とび等々およそ90種類のあそびに興じる姿を描いています。

ピーテル・ブリュージュ 1525年～1530年に北ブラバント地方のブレタに生まれたとありますが、詳細な記録がなく今のベルギーのどこかということになっています。

残された作品は細密な筆致で、人間や社会の歪みや愚かしさを巧妙にとりあげて、それを皮肉ったり、ユーモアをまじえて批判しながら、それを絵にするのが巧みな画家と評価されています。

ルノアールやマネ、ゴッホ、ドガ、ゴーギャン、ピカソならば、ある程度知ってはいましたが13号の98ページをみて、直ちにブリュージュを連想するなんてことは、とても考えられませんでした。

ともかく、千里山会誌をごらんの方々の造詣の深さに驚くと共に感服いたしました。

た ま つ き

末広さんと佐井福さんの間の建物が銀行になったりダンスホール如きものであったりしましたが、記憶に残っているのは「カナリヤ」と看板が掲げられた玉つき場でした。前を通るとコキーンといった音が聞こえていましたが、わたしは入ったことがありません。

先般同期生が催してくれた千里山の桜を観て歩く会に参加した時に、MK君が「きみんちでやった玉つきがおもしろかったなあ」と言ってくれましたので思い出した次第です。

我が家にミニチュア玉つき台がありまして、カナリヤでもおんなじことやっとなるんやろなあと話し合いながら、夢中に遊んだことでした。

玉つき、つまりビリヤードです。

調べてみましたら、昭和三十年七月二十日まで、ビリヤードは風俗営業取締法の対象とされていた為、わたし達子どもはカナリヤへ入ることが出来なかったようです。昭和三十年以降はインドアスポーツとして諸々の競技会や、公式大会が催されるようになります。

たが、我が家にあつた玉つき台は、公式のテーブル、中サイズが2540×1270 mmですから四分の一ぐらいでしたが、ラシヤ張り、クッション、キュー(撞き棒)もチヨークも本格的、そして手玉(白)と的球(まだま・白1赤2)はピンポン球ぐらいでしたがずつしりと重いものでした。この機会に想い出を喚起すべく、ビリヤードについて調べてみました。

ビリヤードの起源、発祥地は諸説ありまして正確には判っていないようですが、17世紀頃にイギリスやフランスでローンボーリングという屋外競技を屋内用にアレンジしたものが原型だといわれています。そしてビリヤード競技は、ポケット・スヌーカー・キャロムと3種類に大別されていますが、我が家のものはキャロムゲームつまり赤・白2コずつの四つ玉でポケットがありません。

手玉(白)を撞いて的球2コ以上に当てれば得点となります。先ずバンキングと称してヘッドライン(2番目のクッションポイントを結ぶライン)から反対側のクッションに向かって撞いたボールが手前のクッションに、より近く止まった方が先攻となる順番を決めまして、サーブで2コ以上の的球に当てる事が出来

ジャンプリンポン

もうひとつ、我が家に珍しいおもちゃがありました。一万八千種類のおもちゃを揃えていると宣伝しているトイザラスの2店舗、Tデパートのおもちゃ売場を探しましたが、このおもちゃは見つかりませんでした。その時代としては珍しい厚手のボール紙で作られた円柱状の箱(高さ十一センチ、筒の直径九センチぐらい)に、おぼろげな記憶の寸法は図のような、たたき台1、ジャンプ棒4のセットで、赤、緑、黄色の3セットが入っています。

④をポンとたたくとその反動で③がはねあがり、筒に入れるのです。勿論、筒箱を動かしてはいけません。一見簡単にみえますが、慣れるまでは仲々むづかしいものです。

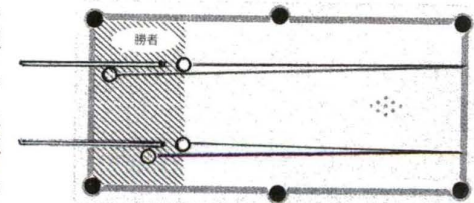
三人で順番にプレイするのですが、うまく入れればプレイ継続、4本全てを入れることが出来れば一ゲーム終了です。ファウルは次の人に交替です。

ればプレイを続けることができます。赤白に当てれば2点、赤赤に当てれば3点、3コ全てに当てれば5点と得点を重ねてゆき、ミスやファウルをするその後攻めのプレイヤーにそのままの球配置で交代となります。

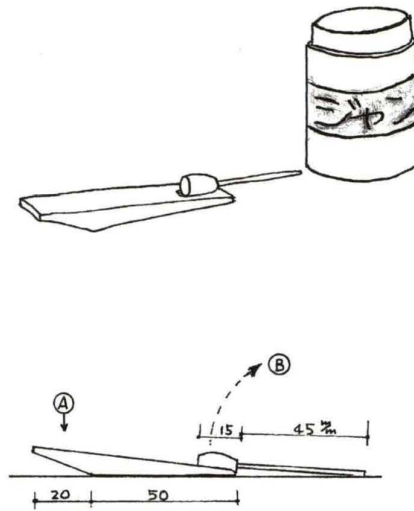
たしかわたしたちは20点か21点を先取すれば勝ちとして1ゲーム終了としたように記憶します。

チヨークを上手に使って、中心撞き、上撞き、下撞き、右、左、ひねりと手玉の回転とクッションをうまく読んで、技を競うようになれば本格的です。

1961年にポールニューマン扮するハスラーのエディ・フェルソンは実在のモデルがいてましてビリヤードに取りつかれた男達の熱き戦いを、ロバート・ロッセ監督・脚本の映画が公開されてから、いよいよビリヤード全盛となりました。1986年には、ハスラーIIが上映され、ブームに拍車をかけたようです。



バンキング 上段が勝者



みんなが上手になつてくると筒箱から徐々に離れた地点から打つのですが、大変難しくなつてきます。

単純なあそびですが、制作の費用も殆どかからないし、部品や動力も配線もなにも無し、こんな簡単なおもちゃが姿を消してしまったことは残念であると共に、今のメーカーが、制作に費用のかかる複雑なものや高価なものばかりに視点を据えて、贅沢三昧を助長しているのしか考えられません。

このおもちゃ、外箱には大きくジャンプリンポンと書いてあるだけでした。

池 あ そ び

羽田、成田を離発着する時は、窓下のみどり、みどりに驚きます。ゴルフコースです。

伊丹の場合は池や沼、つまりたくさんのお水たまりが見えます。

開発された大阪の郊外は、きれいな道路や鉄道路線が整備されて、このために多くの池が埋め立てされたようですが、他の都市に比べるとまだまだ水たまりの多い地域です。

あそびの参考資料を翻いてみますと、川あそび、河あそびというのがたくさん記録に残っていますが、わたし達千里山のガキ族には川あそびが存在しませんでした。

駅から学校までの左側に、川らしきものはあっても田植えの季節だけ水の流れているのですが、12か月の10カ月以上ははじめじめとした溝のようなもので、ところどころにザリガニが蠢く程度で風情のあるものではありません。

川あそびが無いかわりに池あそびはたくさんありました。魚つり、どじょう探し、たなご採りのピン仕掛け、しよつかんづり（食用蛙釣り）、かめつり、井沢さんの池のホタル狩り、貝掘り等々です。

朝まだ薄暗いころに、昨晩家の周辺で集めておいたミミズをエサに、下新田の池へ出かけます。まわりの竹藪が風に揺られる音の中に、うぐいすの声、ひばりの声、ふとうしろを見るとすぐそばの木の枝でうぐいすがさえずっています。

グイーツとうきが引かれましたので上げてみると、アカンバラです。ヤモリのような、トカゲのような奴で、確率としてこれが一番たくさん釣れるのですが、目的は鮒です。5〜6センチぐらいの鮒を10尾ほど収穫があれば引き上げます。

うす暗い竹藪の中を数匹のキツネが追いかけてこしている景色も見ました。

今は服部緑地となっているあたりの池へMY君と出かけたある夏の思い出は、パンツひとつで池に入ってゆき、胸からあごのあたりまでの深さの地点へ着くと足の親指で底のドロを掘り起こすようにさぐっていますと、カチンと固いものに触れます。今度は頭からも

ぐって、今探し当てた貝を手さぐりで掘り起こすのです。現代のようなシュノーケルも水中めがねもなにもありませんが、かりにめがねがあっても、もともと濁った水をかきまわしているわけですから、透明度はゼロに近いと思われまます。

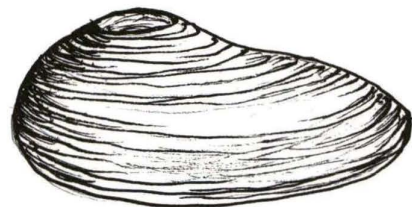
掘り出した貝は池の淵で待っている受け取り係にほり投げるのです。どうして二人で一緒に潜らなかったのか、今から考えますと、緊急の見張りであったのか、まさか脱ぎすてたお粗末なシャツの見張り役ではなかったと思いませんが、ともかくカワリバンコで水に入りました。

掘り出したのはドブ貝（註一）という泥くさいもので食用にもなりません。

わたしが淵で受け取り係の時、MY君の投げてよこした貝を受け取った瞬間、右の手のひらからサーッと血がほとばしりました。わたしはギッチョなのでキヤッチするのには右手なのです。あまりの出血の激しさでキズの深さや位置はわかりませんが大急ぎで家に戻りました。その時獲物を持って帰ったのか、池へ放り投げて来たのか全く記憶がありませんが、高く上げた手から腕を伝って流れ落ちる血に震えがとまりませんで

した。今ならば、医者だ、縫合だと騒ぐでしょうが、赤チンをつけただけで、痛みと腫れが二〜三日おさまりますでした。今でもその傷跡が残っていますので、これを見るたびに池の出来ごとから、いろいろな生きもの、特に昆虫類、そして草や木や花等々、自然がいっぱいの千里山パラダイスが懐かしいかぎりです。

（註一）ドブガイ



ヌマガイともいう淡水産種で、日本各地、朝鮮半島、中国大陸に広く分布する軟体動物門二枚貝綱、イシガイ科の二枚貝で、池沼の泥底にすむ。タナゴはこの貝の鰓室（サイシツ）に産卵し、受精後17日目内外で貝から泳ぎ出る。

拙い文章を四年間も連載させていただきました。ご協力いただいたアンケートやご提案もほぼ綴り込んだと思います。改めて深甚の謝意を申し上げます。あそびに対する研究や考察、分析、記録は実に豊富で細密に存在しますが、拙著は自分達が体験したこと、回想からスタートしていますので、資料や記録と若干異なる説明やルールであったかも知れませんが、目下のところ異論や苦情も寄せられておりません。

時代の変遷は、子ども達の「心の栄養不足を生み出した」とする朝日新聞、声欄の投稿者のご意見に「然り」の同意と共鳴を覚えます。(下段 参照)
過去にも書きましたが、無尽蔵な自然の草花に恵まれた環境が、のどかというのはわたしひとり勝手な解釈かも知れませんが、自然に浸る、慣れる、生かす、という生活行動は、2011年3月11日の大震災に対処した地方の方々と、都会の人達の判断や行動で明らか

に差異あることが明確となりました。

この規模の災害が、東京や大阪直下ならば、ただ人口が多いというのみでなく、文明の利器に頼り過ぎて

いる結末がその被害の差に顕著となりました、具体的に申し上げるならば、わたしは自販機がストップしても、携帯が不通となっても我慢出来ずし、他の手段を考慮いたしました。照明も通信機器も、この機会に少し昔に戻れば良いと考えました。

便利なものや、手軽なもの、楽しいことに期待を寄せると共にその活用を当然のことと考えるために、更に次々と新開発、新発明が生み出されて参ります。

こうした文明の利器が使用不能、不可の事態に陥ったときに如何に対処するか、やや飛躍した解釈ですが、千里山時代のあそびを体験した方々は、然程不自由とか不便を感じないで、別の方法や手段、対策を考えると思います。つまり、我慢すること、辛抱することに強いのみならず、即応の工夫が出来ると思っています。つまりなにも無い時代のあそび上手は、作業も労働も上手という論法です。

あそびの話に甚だ勝手な持論の開陳をご容赦願うと共にご理解を仰ぎつつ攔筆といたします。

2010年(平成22年)8月17日 火曜日

缶けりを知らない子どもたち

主婦 中村 礼子

(三重県東員町) ①

大手カーヒーターメーカーが「缶けり」に関するアンケートをしたところ、小学生の4人に3人が「経験がない」と答えたとです。10人に1人は缶けりという遊び自体を知らないというので、驚きました。私が小学生だった50年ほど前には、缶けりは友だちと仲良く遊ぶ格好の機会でした。今の子が缶けりをしない理由は「場所がない」「一緒にする人がいなかった」などという事です。缶けりなどしている、「危ない」と注意される時代になってしまったのでしょうか。

昔の子もたちは塾にも行かず、遊ぶ時間はたっぷりありました。空き地もありました。自動車も少なく、交通事故の心配もあまりしなくてすみ、友だちも声さえかければいつでも集まってきました。懐かしい時代ですね。そんな環境がなくなり、昔の遊びがだんだん減っていくのも当然のように思いました。

仲間と外で元気に遊ぶ中で、ルールの大切さを身につけ、ライバル心や友情を深め成長できたのです。テレビゲームなど文明の進展が、子どもたちの心の栄養不足を生み出していると思えてなりません。

四年前にお約束した資料やご提案者のネームは、匿名ご希望の多いことから、一部の方のご同意を受けましてカットさせていただきます。

参考文献

書名

著者

発行所

子どもとあそび	仙田 満	岩波書店
伝承遊び考全四巻	加古 里子	榊小峰書店
あそび文化の探究	藤本浩之輔	久山社
昭和子ども歳時記	田中 幸平	八坂書房
童遊文化史全五巻	半澤 敏郎	東京書籍(株)
今昔子ども遊び	馬場 富子	錦正社
昭和わんぱく遊び		
図鑑	佐伯 俊男	ブリケン出版
子どもの四季	加太こうじ	河出書房新社
世界の子供遊戯集	Kケレン	
	マリアンヌ	雪母書房
子ども遊び大全	遠藤 ケイ	新宿書房
遊戯 その歴史と		
研究と歩み	堀川 宏	法政大学出版局
千里山時代のあそび		

完